

**製品名: SPT16 ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab18220**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	119kDa

## 抗原情報

遺伝子名	SUPT16H
別名	SUPT16H; FACT140; FACTP140; FACT complex subunit SPT16; Chromatin-specific transcription elongation factor 140 kDa subunit; FACT 140 kDa subunit; FACTp140; Facilitates chromatin transcription complex subunit SPT16; hSPT16
遺伝子 ID	11198.0
SwissProt ID	Q9Y5B9
免疫原	抗血清はヒト SUPT16H 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 941-990

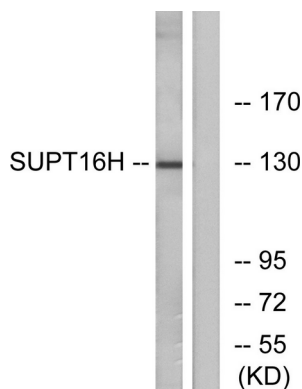
## 背景

タンパク質コード遺伝子の転写は、一般的な転写因子と RNA ポリメラーゼ II のみを用いて、裸の DNA 上で再構成することができます。しかし、この最小限のシステムではクロマチンにパッケージ化された DNA を転写することはできません。これは、補助因子が DNA へのアクセスを促進する可能性を示唆しています。そのような因子の一つである FACT (クロマチン転写促進因子) は、ヒストン H2A/H2B と特異的に相互作用し、ヌクレオソームの分解と転写伸長を引き起こします。FACT は 80 kDa のサブユニットと 140 kDa のサブユニットで構成されており、この遺伝子は 140 kDa のサブユニットをコードしています。[RefSeq 提供、2009 年 2 月]、注意:ペプチダーゼ M24 ファミリーに関連していますが、このタンパク質は保存された活性部位残基を欠いており、ペプチダーゼ活性を欠いている可能性があります。、ドメイン:C 末端のグルタミン酸に富む酸性領域は、FACT 活性に不可欠です。、機能:ヌクレオソームを再編成する働きをする一般的なクロマチン因子である FACT 複合体の構成要素です。FACT 複合体は、mRNA 伸長、DNA 複製、DNA 修復など、DNA をテンプレートとして必要とする複数のプロセスに関与しています。転写伸長中、FACT 複合体はヒストンシャペロンとして働き、ヌクレオソーム構造を不安定化させるとともに修復します。これは、ヒストン H2A-H2B 二量体のヌクレオソームからの解離を促進することで RNA ポリメラーゼ II の通過と転写を促進し、その後、RNA ポリメラーゼ II の通過後にヌクレオソームの再構築を促進します。FACT 複合体は、CK2 (カゼインキナーゼ II) との会合を介して、p53/TP53 の「Ser-392」のリン酸化にも関与していると考えられます。また、ビタミン D 受容体 (VDR) によってリクルートされるクロマチンリモデリング複合体である WINAC 複合体との会合を介して、ビタミン D 共役転写制御にも関与しており、CYP27B1 遺伝子のリガンド結合型 VDR 媒介性転写抑制に必須です。、PTM: ADP リボシル化。PARP1 による ADP リボシル化は遺伝毒性ストレスによって誘導され、FACT のクロマチンからの解離と相関しています。、配列注意: 汚染配列。潜在的なポリ A 配列。、類似性: ペプチダーゼ M24 ファミリーに属します。SPT16 サブファミリー。、細胞内局在: クロマチン上で RNA ポリメラーゼ II と共局在します。活発に転写されている遺伝子座にリクルートされる。、サブユニット: SSRP1 と SUPT16H の安定なヘテロ二量体である FACT 複合体の構成要素。また、紫外線照射後に形成される CK2-SPT16-SSRP1 複合体の構成要素で、SSRP1、SUPT16H、CSNK2A1、CSNK2A2、CSNK2B から構成される。WINAC 複合体の構成要素で、少なくとも SMARCA2、SMARCA4、SMARCB1、SMARCC1、SMARCC2、SMARCD1、SMARCE1、ACTL6A、BAZ1B/WSTF、ARID1A、SUPT16H、CHAF1A、TOP2B から構成される。NEK9 と相互作用する。ヒストン H2A-H2B に結合し、GTF2E2 と相互作用する。、組織特異性: 普遍的。、

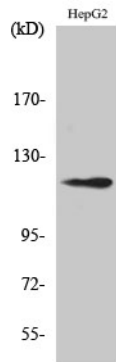
## 研究分野

-

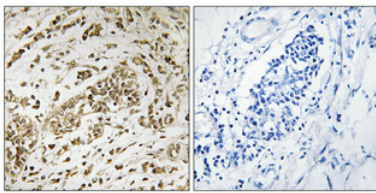
## 画像データ



SUPT16H 抗体を用いた HepG2 細胞および Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



SPT16 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。